

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木 3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2016年(平成28年)4月16日 土曜日

無料

第47号

毎月発行

創刊2016年(平成28年)4月16日 土曜日

《料理の鉄人》リバイバル!

そのイベントを契機に、東北水産業は
素材供給基地から、高付加価値産業
へと、そして「料理大国」へと脱皮する

東北水産業の付加価値率は地方別の第7番目。これまで、当新聞でも幾度か指摘してきたことであるが、東北水産業の付加価値率は全国でも目立って低い。北海道に次ぐ二番目の低さである。

この点に関し、きちんとした以下のデータもあるのをご参照いただきたい。

『Boj Reports & Research Papers』・「東北地域における製造業の課題と可能性」(P14~15) — 日本銀行仙台支店 玉生揚一郎氏
http://www3.boj.or.jp/sendai/shiryou/2013/toku1304.pdf#search=%E6%9D%B1%E5%8C%97%E6%B0%B4%E7%94%A3%E



かつて人気だった『料理の鉄人』の舞台

この資料によれば、水産食品製造業の出荷額および付加価値額は、各地方別の高い方から数えて全国三位にもかわらず、付加価値率は北海道に次ぐ低さの七番目ということである。

簡単にいえば、出荷は多いが、付加価値率低く、加工なしの素材供給基地となっているのではないかとということである。

三陸漁業従事者は消費者価格を知らない

震災発生からしばらくしてから、三陸水産業を復興させるためにはどうしたら

を聞いて、自分たちが漁協その他に材料として卸すときの価格とのギャップがあまりにも大きすぎてみな絶句していたのだ。

あまりにも無知であり、お人好しすぎるのではないだろうか。

さらに、実際の漁業の現場で邪魔物として打ち捨てられ、顧みられないもの、例えば、大量供給できない海藻類とか、同じく大量供給できない魚類とか、ちゃんと価格がつき、販売も可能だと聞いて、一同驚いていた。

いかにして、水産業を研究している大学教授と三陸水産業従事者とで討論するTV番組があった。

そこで話された内容のうち、いまでも鮮烈に印象に残っている話がある。

それはまず、三陸の漁業従事者が自分たちの出荷物が、さまざまに加工されて市場に出た結果、最終的に都市圏ではいくらかで売られているのかを知らないことだった。

その消費価格、つまり販売価格



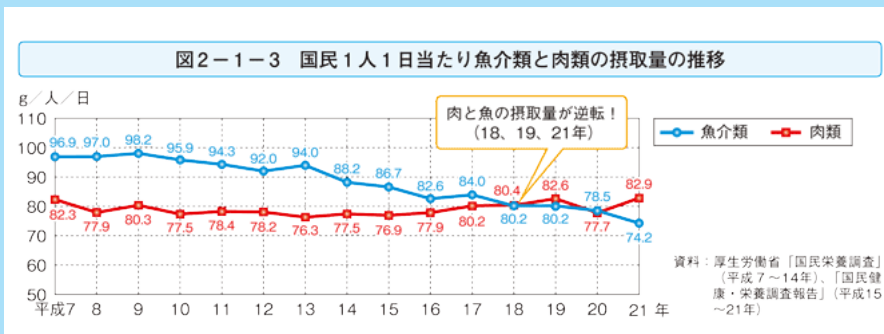
国内産なら北海道・東北素材の明太子

魚の消費も落ちていたところに大震災発生

東北大震災(※筆者はあえてこう呼ぶ)が東北を襲ったのは、実はこうした背景が東北で長期間進行していた中でのことだった。

これを東北独自の水産業の長期的課題として捉えてみよう。

さらには、この上に、日本国内全体での魚消費量の長期低迷も重なっていたのである。(グラフ参照)



魚介類消費量の減少が続いている

消費者の「魚離れ」が依然として進行しています。魚介類と肉類の国民1人1日当たり摂取量の推移をみると、魚介類が長期的に減少傾向にあるのに対し、肉類はほぼ横ばい傾向にあり、平成18年には初めて肉類の摂取量が魚介類を上回りました。その後、19年、20年と魚介類と肉類の摂取量が拮抗していましたが、21年には肉類と魚介類の摂取量の差が拡大しています。

平成22年度 水産白書 全文 > 平成22年度 水産の動向 > 第1部 平成22年度 水産の動向 > 第2章 平成21年度以降の我が国水産の動向 > 第1節 水産物の消費・需給をめぐる動き > (1) 水産物の消費動向

水産白書

福岡明太子の素材は北海道と東北産

九州の福岡産と誰でもが思っている明太子だが、その素材のタラコの産地は福岡でもなく、九州の他県でもない。

最近では外国産のタラコも多用されているようだが、国産素材にこだわっている業者が仕入れるのは北海道と東北産であることをほとんどの人が知らない。聞くたびに驚く。

北海道や東北は、明太子の素材提供の裏方のまま、だれにも知られることなくブランドの陰にずっと隠れてきた。

『料理の鉄人』リバイバル企画

そこで、当新聞からの提案である。

かつて『料理の鉄人』という人気番組があった。毎回毎回、料理の達人同士が

対決するのである。

その中から、たくさんの方達ならぬ鉄人が誕生した。料理のジャンルは日本料理、フレンチ、中華などさまざまであった。

この番組を東北でリバイバルし、素材は海鮮に限定し、料理ジャンルは問わず、一流シェフに競ってもらおうという企画である。そして料理のレシピは、東北の飲食業にオープンにして広め、国内外旅行者に提供する。

これを突飛なアイデアと決めつけず、真剣に考えてみようではないか。

目指すは「料理大国」

前述の二重苦、三重苦を一步步乗り越えるのでは時間がいくらあっても足りない。世界もどんどん変わっていく。一歩ずつの努力では不足なのである。

だからこそ、この『料理の鉄人』リバイバル企画を契機に、水産業の付加価値アップも、ブランド創造も、打ち捨てられた「お宝」発掘も一挙に実現した上に、東北はまず海鮮を素材にした「料理大国」を目指そうではないか。

それだけにとどまらず、農産物も取込み、あらゆる東北オリジナル素材を使った「料理大国」も実現しようではないか。

戦争や大災害を機に世界に広がる「SOS子どもの村」



東日本大震災を契機として誕生した「子どもの村東北」は「家庭的養護」のモデルとして今後の活動を展開

「子どもの村東北」村長が語る その②

1 社会的養護の基 本来的な考え方

社会的養護は、「保護者

「子どもの村東北」村長

今野和則氏



前宮城県立石巻支援学校校長。宮城県行政職を経て公立小学校教員。宮城県教育庁特別支援教育室長補佐、気仙沼支援学校校長、宮城教育大学付属特別支援学校副校長を歴任。東北福祉大学で後進を指導中。石巻市出身。

のいない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童を、公的責任で社会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への支援を行うことと定義されています。以下の法令に明示されています。

① 生来的に子どもが持っている権利(生きる権利、守られる権利、参加する権利など)

② 第3条「児童に関するすべての措置をとるに当たっては、児童の最善の利益が主として考慮されるものとする。」

(2) 児童憲章(昭和26年5月5日制定)

「児童は、人として尊ばれる。児童は、社会の一員として重んじられる。児童は、良い環境の中で育てられる。」

(3) 児童福祉法(昭和22年制定)

第一条「すべて児童は、ひとしくその生活を保障され、愛護されなければならない。」

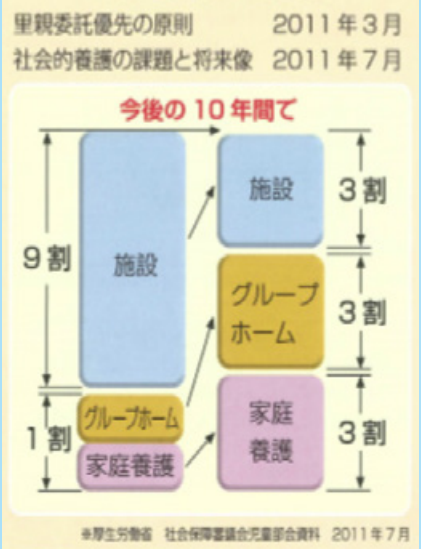
そして、諸外国では、家族と暮らせない子どもたちを里親などの家庭的な環境で育てています。

「子どもの村東北」村長

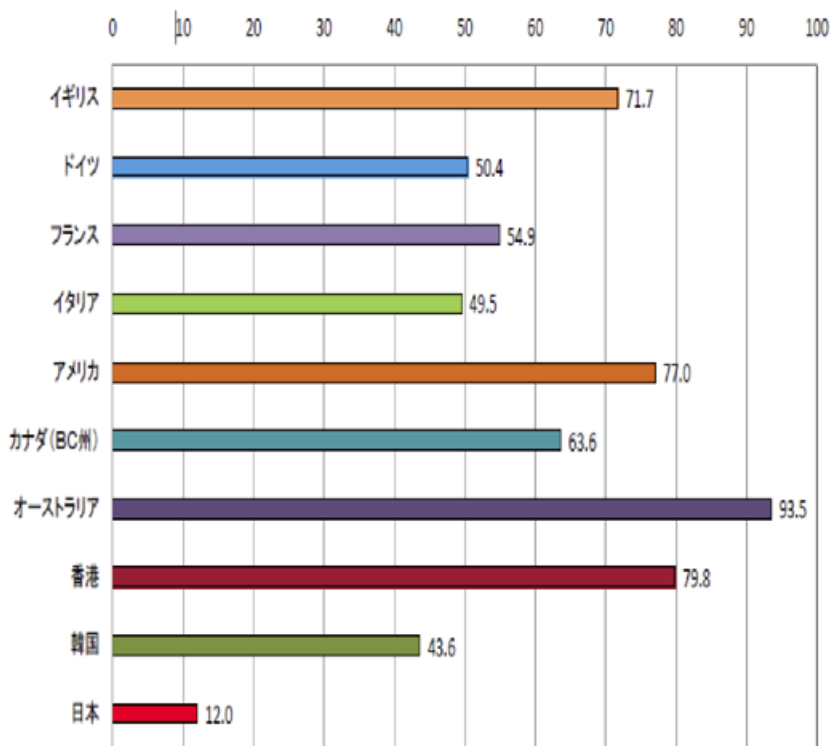
2 我が国の社会的養護の現状

我が国の戦後の社会的養護は、戦争孤児の対応から始まりました。大戦以前からキリスト教会を中心に児童の福祉に手が伸べられていたこともあり、以後の我が

家庭的養護の加速



各国の要保護児童に占める里親委託児童の割合(2010年前後の状況)(%)



※「家庭外ケア児童数及び里親委託率等の国際比較研究」主任研究者 関原久代(東京成徳大学子ども学部)(平成23年度厚生労働科学研究「社会的養護における児童の特性別標準的ケアパッケージ(被虐待児を養育する里親家庭の民間の治療支援機関の研究)」)

※ 日本の里親等委託率12.0%は、平成22年度末(2011年3月末)

が国の戦後の社会的養護は、戦争孤児の問題が収束した我が国ですが、家族と暮らせない子どもたちは増えています。

親の病气、経済的理由、虐待など様々な事情で家族と離れて暮らす子どもたちが

が増えているのです。全国では、約4万7千名。その多くが、施設で育てられているのが日本の現状です。

このことが、必ずしも児童の権利を守っていないというだけで、国連から3度の勧告を受けています。

東日本大震災を契機とし



戦争や大災害への緊急支援が使命(2011年統計)



SOS Cochabamba(ポリビア)



東アフリカ干ばつ緊急支援

子どもの養育	
SOS子どもの村	533
家族強化プログラム	621
SOSユース・プログラム	606
受益者総数	631,522
教育	
SOS幼稚園	237
SOSヘルマン・グマイナー・スクール	183
SOS職業訓練センター	52
受益者総数	146,919
医療・ヘルスケア	
SOS医療センター	63
受益者総数	636,933
緊急支援	
SOS緊急支援プログラム	15
受益者総数	505,553

3 国際NGO「SOS子どもの村」とは

私たちは「子どもの村」

て誕生した「子どもの村東北」は、「子どもの村福岡」と共に、家庭的養護のモデルとして、今後の活動を展開して行こうとしています。

が国で二つめの「子ども村」は、多くの村と同様に、東日本大震災という負の遺産を背景にして生まれました。昨年度訪問したオーストリアの「SOS子どもの村」は、広大な敷地に数多くの設備・人材を配置し、さらには牧場まで備えた、文字通りの村(コミュニティ)に成長してしましました。我が国の「子どもの村」も今後数十年を経て、大きな価値ある財産となっていることを願ってやみません。

は、1949年に、オーストリアで設立されたSOS子どもの村の理念を基にしています。

第2次世界大戦後、多くの戦争孤児たちが社会問題になりました。ヘルマン・グマイナー(1919-1986)は、「子どもたちがそれぞれの家庭を持たない限り問題の解決はない」と考えました。そして、インスブルグ郊外のイムスト村に、最初の子どもの村ができました。

スローガンは「すべての子どもに愛ある家庭を」。世界的規模の里親と言えま

正式名は「SOS子ど



刺身・・・渋谷



タコのカルパッチョ・・・渋谷



クジラステーキ・・・渋谷

四月九日開催の第十九回三陸酒海鮮会・渋谷は、スタートしてからちょうど満三年となりました。ずいぶん長い間続けてきた感じがしますが、まだ三年です。今後も、最大の被災地である三陸の復興を間接的に支援するため、出来る限り継続してまいりたいと思

います。開催場所である、渋谷ヒカリエ近くにある焚火家さんのご協力により、東北の地酒ラインアップはますます充実し、さらに料理は食べきれないほどのボリュームと種類の多様さです。ほぼ一週間後に開催されたり三陸酒海鮮会・日本橋も、

渋谷開催より約半年遅れてスタートしましたが、こちらも毎回盛況です。日本酒ラインアップは厳選され、いつもオーナーから直接解説があります。この解説で、筆者も大分日本酒に詳しくなりました。お店は、改装されたばかりの安産のお守りで有名な

水天宮の近くです。両方の会はともに完全オープンではありませんが、ぜひ参加者の輪を広げて、また交流の輪を広げていければと思っております。ぜひ多くのみなさんに、三陸の海産物と東北の地酒の美味しさを堪能していただきたいと思

**すごいボリュームの料理と地酒
参加者も多様で交流も活発化
うまい東北地酒と三陸海鮮の会**
第19回 三陸酒海鮮会の渋谷開催
第17回 三陸酒海鮮会の日本橋開催



地酒ラインアップ・・・日本橋



きんきの鍋・・・渋谷



【～マグロ刺身と新たまねぎのサラダ～ 完成】

第20回 水産業再興のための料理レシピ紹介

【マグロ刺身と新たまねぎのサラダ】

色鮮やかで食欲をそそる春の簡単料理です



郷土料理愛好家
松本由美子氏

一簡単レシピ

【材 料】 材料 2人分 / 新たまねぎ 1個 (200g) / ベイリーフ(クレソン) / トマト(くし形に切る) 1個 (150g) / 刺身(マグロなど) 80g / バルサミコス 大1 / オリーブ 大2 / 塩 小 1/3 / 砂糖、こしょう 各少量

【作り方】 ① 新たまねぎは千切りにし、水に晒しとパリッとさせ水けをよくきる。ベイリーフ、トマトを皿に盛ってまわりにトマトを並べる。②バルサミコスなどを合わせ、調味料を作る。③マグロを食べやすく切り、②を大1加えてからめる。①に盛りつけ、残りのドレッシングを野菜にかける。

総カロリー 221kcal 塩分 0.9g

震災に関する伝承をめぐって 正しい伝え方を継ぐべきか

一歩間違えると危うい「経験知」

前号に引き続き、もう少し震災の話にお付き合いいただきたいと思います。

「津波の前には引き潮がある」

今回の震災に限らず、繰り返し地震災害に遭遇している「地震大国」たる日本では、その経験知をどのようにに後世に伝え継いでいくかが、将来の被害軽減のために大きく問われる。その意味でも、今回の震災から得られた知見はできる限り発信していくべきであるし、個人的にもそうした活動を続けている。

しかし、こうした経験知を伝え継いでいく際に、厳に心掛けなければならないことがある。それは、正確な情報を伝え継いでいく、ということである。当たり前のことと思われるかもしれない。ところが、意外にそうでないこともあるのである。ある個人が遭遇した

体験が、必ずしも広く敷衍できる事例ではないばかりでなく、場合によっては同様の地震に遭遇した際に判断の誤りにつながる恐れがあることすらあるのである。

「仙台平野に津波は来ない」

他にもある。「仙台平野に津波は来ない」。これは、実は私もそう聞かされて信じ込んでいた。津波に繰り返して襲われた経験のあるのは三陸沿岸、仙台平野には津波が来ない、と。ちよつと歴史を紐解いてみれば、今回の地震と同規模と言われる1100年前の貞観地震まで遡ることもなく、400年前の1611年、伊達政宗の時代の慶長三陸地震の際にも仙台は大津波に襲われていた。1793年の寛政地震でも、1835年の天保年間の地震でも、仙台平野は津波に見舞われたとされる。しかし、いつの間にか、その後わずか200年足らずの間、津波に襲われなかったという「経験」が「仙台平野に津波は来ない」という誤った経験知を広めてしまったわけである。

「大きな地震の時には津波が来る」

そもそも、「大きな地震の時には津波が来る」という経験知自体、誤りである。1896年の明治三陸地震は最大震度が4という地震だったが、特に岩手県の三陸沿岸は今回の震災に匹敵する大津波に襲われた。これら岩手県三陸沿岸地域の震度は、2〜3だったのに対して、つまり、体的に大きな地震でなくても津波に襲われる危険はあるのである。

「30年に一度宮城県沖地震が起る」

「30年に一度宮城県沖地震が起る」という経験知も、実は危うい。近年では、38年前の1978年に宮城

「30年に一度宮城県沖地震が起る」

「30年に一度宮城県沖地震が起る」という経験知も、実は危うい。近年では、38年前の1978年に宮城

「30年に一度宮城県沖地震が起る」

「30年に一度宮城県沖地震が起る」という経験知も、実は危うい。近年では、38年前の1978年に宮城

「30年に一度宮城県沖地震が起る」

「30年に一度宮城県沖地震が起る」という経験知も、実は危うい。近年では、38年前の1978年に宮城

含む)で、我が国で記録が残る地震の中で最も多かった。幸い、現在多くの携帯電話では、緊急地震速報に加えて、津波警報も受信できる。しかし、圏外だったり、電源が入っていないたり、対応機種でなかったりというところもあろう。加えて、そもそも警報が間に合わないこともある。過信しないことが重要である。

今回の地震では、地震発生から津波の第一波到達まで最短でも15分程度の余裕があった。しかし、1983年の日本海中部地震では(ここでも「日本海には津波は来ない」という誤った経験知があった)、地震発生からわずか7分後に津波の第一波が観測されている。気象台が津波警報を発令したのは地震発生から14分後で、その時には既にいくつかの地域で津波に襲われていた。1993年の北海道南西沖地震では、第一波到達は何と、地震発生から2、3分後である。どんな地震であっても、地震発生後の情報収集は必須であるが、海沿いで地震に遭遇したら、情報収集をするより先にまず海岸からなるべく離れる、ということ徹底するべきである。

この宮城県沖地震の平均発生間隔は38年で、概ね25〜40年に1回発生するとされているが、個々の地震を見てみると、必ずしもそこまで間隔が空いていないのである。例えば、1933年の次は1936年、1937年に発生し、1978年と2011年の間に、2005年の地震もあつた。震源の深さの違いから「宮城県沖地震」には加えられていないが、2003年にも宮城県沖を震源とする大きな地震があつた。震災後、「これほどの地震が起きたのだから、しばらく東北沿岸に大きな地震は来ない」という見方もあるが、このように見ると「次に起るのは30年先」と思い込むことは実に危険であることが分かる。

加えて、直下型地震への備えも必要である。阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震は、地震発生直前の30年確率は0.02%〜8%であつた。発生確率からするとそれほど大きくない。にも関わらず、実際に起こつた。阪神・淡路大震災を見てもよく分かるように、直下型地震の場合はまた東日本大震災とは全く違う被害が生じる。例

えば、仙台市街地の直下にある「長町―利府断層帯」による地震の発生確率は、「30年以内で1%以下」とされているが、ゆめゆめ油断しないようにしておきたい。

「てんでんこ」というのは三陸地域で、「各自」や「めいめい」を意味する言葉である。文字通りの意味は、「津波でんでんこ」は「津波が来たら各自で逃げろ」、「命でんでんこ」は「命は各自で守れ」という意味である。

実際、この言葉通り、地震発生と同時に各自が避難を開始し、津波の難を逃れた事例が三陸の地域には多くあつた。最も有名なのは「釜石の奇跡」と報じられた釜石市内の小中学生の避難の事例である(当事者の方々は「奇跡」と呼ばれることを嫌うが)。釜石市内では残念ながら5名の小中学生が命を落としたが、残る2926人の小中学生は己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

しかし、今の「てんでんこ」に関する報じられ方は、この「各自で逃げる」ところだけに焦点が当たり過ぎている。その結果、「家族や災害弱者を置いて逃げることを正当化するのか」といった批判が起きたりする。これは、「てんでんこ」という言葉の極めて狭い一面のみを見ているのである。今報じられている「津波でんでんこ」「命でんでんこ」は、いざ地震が起きた際のアクションばかりがクローズアップされているが、実はこの言葉の意味するところでもっと重要なのは、平時のアクションの方なのである。端的に言えば、いざという時にめいめいが自分のことだけを心配して逃げればいよいよ、普段から非常時のアクションについて話し合い、その通りに行動するように申し合わせておくということがベースにあるのである。

これによって、いざという時には家族、知人も同じように避難していると考え、自分の身を守ることにだけに専念できる態勢になれる。いわば、日常からの相互の信頼関係があつてこそ「てんでんこ」なのである。にも関わらず、マスメディアの論調の中でも「津波でんでんこ」が利己的、自己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

「てんでんこ」が利己的、自己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

「てんでんこ」が利己的、自己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

「てんでんこ」が利己的、自己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

「てんでんこ」が利己的、自己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

「てんでんこ」が利己的、自己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

「てんでんこ」が利己的、自己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

「てんでんこ」が利己的、自己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

「てんでんこ」が利己的、自己中心的であるかのような報じられ方がしたり、あまりに自主的に避難所まで避難したのである。

するようなものすら見受けられる。「てんでんこ」の本質を知らない、全体的外れな認識だと言わざるを得ない。

実際、釜石市内の小中学生は「自分より弱い立場にある小学生や高齢者を連れて逃げるんだ」と教えられていて、「津波が来るぞ、逃げるぞ」と声を出しながら、保育園児のベビーカーを押して、お年寄りの手を引いて高台に向かって走り続けたのである。

高齢者や災害弱者も含めて、いざという時にどのように避難するかについて、普段から綿密に検討し、かつ訓練を繰り返して無理がないかをチェックし、改善する、という取り組みが不可欠なのである。

このように、震災における「経験知」については、もちろん震災に遭遇した一人ひとりの貴重な体験に基づいているものではないものの、その伝え方、伝わり方によっては、本来の意味と異なってしまうたり、誤った判断につながったり、そもそも伝わっていないかたりということがある。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

震災体験に基づく「経験知」については、こうしたことに十二分に留意しつつ、次の災害時に被害の減少に役立つような情報として発信していくことを心掛けていきたいものである。

執筆者紹介

大友浩平

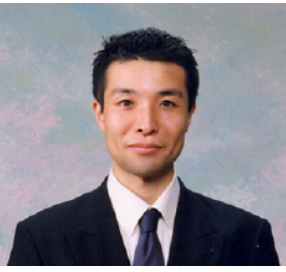
(おおともこうへい)

奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。

「東北ブログ」

http://blog.livedoor.jp/anagmasi/

Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo



anagmasi/

連載 むかしばなし

芭蕉のせいで 今もまじらふ

第三十五話 邂逅の天界

若はまだ暗闇の中を歩いてきたが、目の前にキラリと強い光の点が輝くのを認める。少女を守るように、時に行く手を邪魔するよう

少女は時折、口を挟んでみる。「ここには私たちの、都が建ちます。五百年ほど先になるかしら・建物と一緒にたくさんの樹が成って、杜の都と呼ばれるようになります。」

「封印は、特別な術師でない、と、解けない。強いだけでも駄目なんだ。何とい

驚いて振り返ったうちの、武者の方が立ち上がる。「貴女は・若どの。不思議な事、何処より参られた」

「皆、無茶をしなかっただろうか。逃げおせせたらうか。」

ならぬ対抗心を感じさせる二人の女が、因縁めいた息詰まる空気を醸し出して向かい合っていた。

その銀色に輝く「船」が漆黒の空を駆け抜けていく様は一瞬だった。あつという間に光の粒になって、眼下の青く広がる地平へ消えていく「ミクマックサイド」

「とてもない。滅びたのは大国の方よ。アメリカもロシアも、中国も・日本も国民はほぼ全滅したわ。」

その「船」ニグヴンサイドはゆっくりと回転する巨大な赤銅色の樽のような形で、三方に洋式帆船の帆のような白い羽根を広げている。

「鞭楯の丘の光だ。宮城野はずっと昔から寂しい荒地さ・人も獣もここには留まらぬ。私も草木が根を張るばかり、あの軍隊も風の三郎と同じように、ただ原野を蹴つ散らかして通り過ぎていくだけだろう。」

必要なのは。宮城野にはろくに水路もない。崖下に広瀬が落ちているだけだよ

雲行きは怪しく、風も強くなっている。周囲を見渡すと、かましい三本の樺の樹の姿はどこにもない。

「えつ、石川さん！父が大層、褒めていました・遠野の、佐々木善喜です」

「私の時代には、甘柿といつて赤丹十郎といつて、この地の名物男・というか、名物妖怪だ。民を飢えから救い、その実は赤丹を抜かず食べる事ができる。」

「この山、そして宮城野は私たち台蜂族のもの。」

「もうすぐ、ニグヴンサイドが通過する。上手く掴まれないとね。」

「民族や国家の力関係は、二十一世紀に転換したのよ」

その後、鉄シャコの電源を落として、操縦席の天蓋を開けると、少女トヨハが振り向いて、笑いかけた。



奥羽現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出だし演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

「あの堂は悪路王の力だけじゃない。この国全体の力を封じているようなもんさ」

「この国って・日本、ではなくて・」

「あんなら、蝦夷の国の事さ。決まってるじゃないか」

「はい、名取の高館に・本吉四郎様にはお世話にな

「何が、そんな所で！」

「二十一世紀には、そうした原住民たちは消滅しているかと思いましたが・」

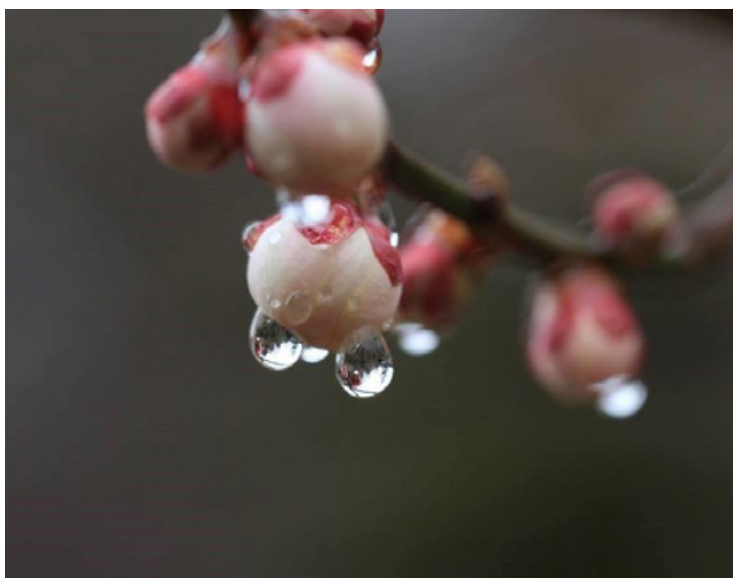
「待って！もう少し、もう少し教えてくれ・何故、ニグヴンやミクマックがこうして宇宙に生き残っているのか・」

賢治たちは見えてはならぬ未来を、さらに見せてもらえるのか？そして日々登場の芭蕉、その存在感を取り戻せるのか！

次回予告

シリーズ 遠野の自然
「遠野の清明」
遠野 1000 景より

ようやく春が到来したと実感できるこの季節は、二十四節季では「清明(せいめい)」にあたる。春先の清らかで生き生きとした様子を表した「清浄明潔」という語を略したもののようだ。万物が若返り、清々しく明るく美しい季節ということである。



雨上がり

その点で、遠野の清明は花々の一斉開花であり、まさに清明という季節にふさわしい。
*
とはいえ、先月の下旬には、にわか雪も降った遠野



にわか雪

である。まだまだ安心はできない。

遠野の桜はまだで、梅の開花が主役である。

雨上がりの写真は秀逸である。雨のしずくがまさに落ちようとしている瞬間であり、同時に白梅の蕾がまさに開かんとしている短い時間を捉えた。

ショウジョウバカマやミスミソウ(ユキワリソウ)、そしてサンシュという筆者には初お目見えの花などが一斉に開花している。

クロッカスは筆者がとりわけ好みの花である。小さい頃から、この花が咲くと春が来た実感できる。

この季節はまた主役の交代の時期でもあり、すっかり枯れたフヨウの花が、タネをつけている。

咲く花も良いが、散る花も良い。特に還暦を過ぎるとそれを余計に感じる。



ミスミソウ(ユキワリソウ)



夕暮れに撮ったショウジョウバカマ



しだれ紅梅



冬のフヨウ



クロッカス



サンシュ間もなく開花



東北の農業に携わる人で構成される東北農民管弦楽団

石巻に新しい復興の風を

若者が中心となって立ち上げたNPO法人が新しい手法で風力発電所開発に挑戦する！
-NPO法人STEEL Aのプロジェクトのレポート-

持続可能な社会を作ろう。もつと環境に優しく生活しよう。復興に力を出そう。このようなメッセージはとも強く、大切なものであるというは多くの人が知っているが、やれ温暖化だ原発だといった社会問題へのアンチテーゼ的な出発点だけはいざ何かやってみようという気が起きない人も少なくないだろう。

長期間に亘って問題に取り組むにはある種の楽しさのような要素が必要と思う。その触媒となる代表的なものがアート。とりわけ音楽だと思う。同じメッセージでも音楽が入ることで伝わり方が全く変わるのだ。

農業×オーケストラ ×地元物産

宮澤賢治学会にも所属する大平さんを伝って、東北農民管弦楽団の定期演奏会に微力ながらお力添えする機会を頂いた。団長の白取克之さんは青森県岩木山麓で自ら開墾した土地を使って有機野菜を育てる農家であり、チェロを演奏する音楽家でもある。同じく70名を超える楽団員はいずれも農業に関連した職に就いているというまさしく農民管弦楽団だ。

「農民よ、芸術家たれ」とチェリストでもあった宮澤賢治が農民芸術概論綱要で語った。そんな農家さんが集まってオーケストラを組むなんて素敵な話だ。初の仙台公演は世界的な音楽家である館野泉氏を含む一流の演奏陣も加わり、定員の六百席が事前に完売する好評さであった。会場に設けられた東北の地元物産を扱うコーナーでは手塩にかけた農水産物が飛ぶように売れた。

大平さんの呼びかけで県内の有機農家である大滝自然農園の佐藤夫妻も駆けつけ、音楽を通して新たな東北の農家さんのネットワークが生まれたように思う。我々も広報を行うブラス出演以外にも懇親会などを通じて多くの楽団員の皆様と繋がることができ、我々の活動の目標である持続可能な社会へ向けて心ある生産者の方々と関わり合いを持つということに一つの足がかりを掴めたように思う。

震災後、国内外問わず遠方から多くのボランティアが駆けつけてくださった。被災後間もない宮城県石巻市にColors UKというイギリスのロックバンドのボーカルを務めるKeijiさんが加入した。今回の特別メンバーということで、音楽家の尾飛良名も不参加されていた。震災が起きて被災地のために何かできないかと思われた復興応援ソングでもある同名の楽曲を製作し、被災地を応援し続けてきた。名もない絆はユーザーで視聴できるので是非とも検索していただきたい。今回のLIVEにおいて我々の活動紹介と感謝の意を伝えるビデオレターを送らせて頂き、お二人にご紹介して頂く形で広報活動に力を貸してくださいました。

宮城県仙台市にて行われる「とつておきの音楽祭」で毎年お会いする鈴木さんとは先述の名もない絆プロジェクトで繋がった。鈴木さんやイギリスの皆様からは我々も大きな励ましを頂き、会場で上映された東北からの感謝を伝える動画に出演させて頂いた。催しの様子は全世界に中継され、大手メディアなどを通じて報道された。それぞれの立場と意見、個性も特技も違えどより良い未来という共通のゴールを目指しつつ互いにフィードバックの異なる力を合わせる。それがうねりを作り出し、結果として様々な問題を解決へ向かわせると思う。その中で音楽の持つ可能性にこれからも着目したい。

5月22日に我々のNPOの通常総会と合わせてプロジェクト説明会を仙台市内にある東北学院大学サテラ

「自然エネルギー×イギリス×ロック」 震災後、国内外問わず遠方から多くのボランティアが駆けつけてくださった。被災後間もない宮城県石巻市にColors UKというイギリスのロックバンドのボーカルを務めるKeijiさんが加入した。今回の特別メンバーということで、音楽家の尾飛良名も不参加されていた。震災が起きて被災地のために何かできないかと思われた復興応援ソングでもある同名の楽曲を製作し、被災地を応援し続けてきた。名もない絆はユーザーで視聴できるので是非とも検索していただきたい。今回のLIVEにおいて我々の活動紹介と感謝の意を伝えるビデオレターを送らせて頂き、お二人にご紹介して頂く形で広報活動に力を貸してくださいました。



LIVE中のColors。今回のメンバーは一夜限りの特別チームとなった。

尾飛良名さんはプロジェクト名もない絆を主催し、様々なアーティストによって歌われた復興応援ソングでもある同名の楽曲を製作し、被災地を応援し続けてきた。名もない絆はユーザーで視聴できるので是非とも検索していただきたい。今回のLIVEにおいて我々の活動紹介と感謝の意を伝えるビデオレターを送らせて頂き、お二人にご紹介して頂く形で広報活動に力を貸してくださいました。

宮城県仙台市にて行われる「とつておきの音楽祭」で毎年お会いする鈴木さんとは先述の名もない絆プロジェクトで繋がった。鈴木さんやイギリスの皆様からは我々も大きな励ましを頂き、会場で上映された東北からの感謝を伝える動画に出演させて頂いた。催しの様子は全世界に中継され、大手メディアなどを通じて報道された。それぞれの立場と意見、個性も特技も違えどより良い未来という共通のゴールを目指しつつ互いにフィードバックの異なる力を合わせる。それがうねりを作り出し、結果として様々な問題を解決へ向かわせると思う。その中で音楽の持つ可能性にこれからも着目したい。

5月22日に我々のNPOの通常総会と合わせてプロジェクト説明会を仙台市内にある東北学院大学サテラ



架け橋プロジェクトの様子 撮影：富岡秀次

イベント紹介 5月22日に我々のNPOの通常総会と合わせてプロジェクト説明会を仙台市内にある東北学院大学サテラ

来月号の記事 先月号で告知した4月2日に東北大学にて行われるシンポジウム「自然エネルギーで地域社会を変える」の様子を中心に執筆する予定である。

寄稿者プロフィール

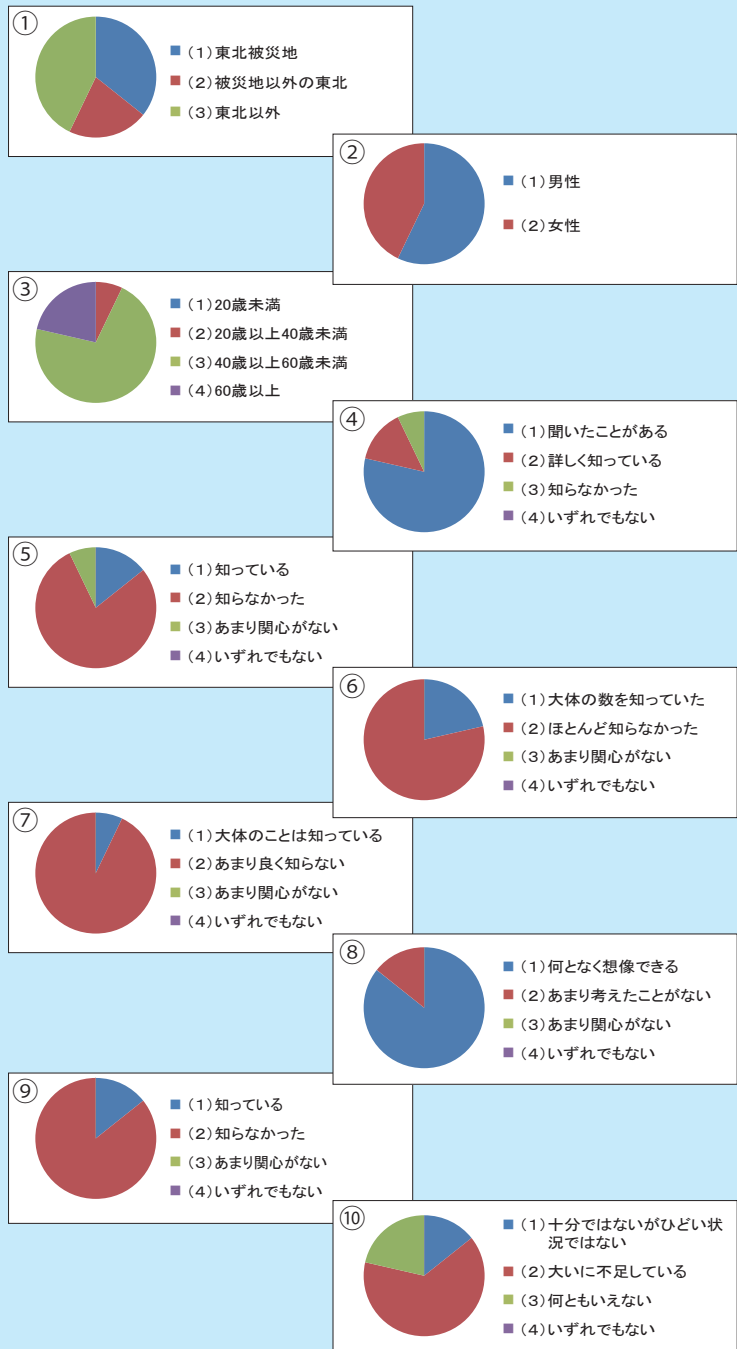
東梅祐也 (とうばいゆうや) 石巻市出身。 エンジニアを志し、石巻工業高校電気科、東北学院大学電気情報工学科、同大学大学院にて修士号を取得。現場での仕事に従事するために博士課程を中退する。 幼い頃から動物が好きで、将来は環境問題の解決に貢献できる仕事につきたかったが、徹底した現場人間のため、大学院時代に社会問題の現場を肌で感じるために環境問題・戦争・貧困をテーマに地球一周の一人旅へ。 帰国後は反原発、植林、ゴミ拾い、反戦デモにチ



第46号 ネットアンケート集計結果

【東北大震災による孤児と遺児について】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	5
	(2) 被災地以外の東北	3
②	性別	
	(1) 男性	8
	(2) 女性	6
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	1
	(3) 40歳以上60歳未満	10
④	震災孤児・遺児という言葉を知っていますか？	
	(1) 聞いたことがある	11
	(2) 詳しく知っている	2
	(3) 知らなかった	1
⑤	「子どもの村東北」を知っていますか？	
	(1) 知っている	2
	(2) 知らなかった	11
	(3) あまり関心がない	1
⑥	どれくらい震災孤児と遺児が発生したか知っているか？	
	(1) 大体の数を知っていた	3
	(2) ほとんど知らなかった	11
	(3) あまり関心がない	0
⑦	震災孤児と遺児のその後の状況を知っていますか？	
	(1) 大体のことは知っている	1
	(2) あまり良く知らない	13
	(3) あまり関心がない	0
⑧	子どもと大人の被災ショックはどれほど違うか考えたか？	
	(1) 何となく想像できる	12
	(2) あまり考えたことがない	2
	(3) あまり関心がない	0
⑨	震災孤児の悲劇的な事件を知っていますか？	
	(1) 知っている	2
	(2) 知らなかった	12
	(3) あまり関心がない	0
⑩	震災孤児や遺児への公的支援は十分だと思いますか？	
	(1) 十分ではないがひどい状況ではない	2
	(2) 大いに不足している	9
	(3) 何ともいえない	3
	(4) いずれでもない	0



震災による孤児と遺児の状況を拡散できた!

今回は「東北大震災による孤児と遺児について」をマスメディアもあまり取り上げて来なかった震災による孤児と遺児の状況について当新聞で伝えることができて良かったと実感できた記事とアンケートであったこのことは大震災の悲惨さの中でも際立つものである。特に「震災孤児の悲劇的な事件」など一度聞いた二度と忘れることができない。回答者数は十四名。今回は特に、女性の回答者が多かった。

④ 「震災孤児・遺児という言葉を知っていますか？」は、「聞いたことがある」が約78.6%。

⑤ 「子どもの村東北」を知っているか?」は、「知らなかった」が約78.6%。

⑥ 「どれくらい震災孤児と遺児が発生したか知っているか?」は、「ほとんど知らなかった」が約78.6%。

⑦ 「震災孤児と遺児のその後の状況を知っているか?」は、「あまり良く知らない」が、約92.9%。

⑧ 「子どもと大人の被災ショックはどれほど違うか?」は、「何となく想像できる」が約85.7%。

⑨ 「震災孤児の悲劇的な事件を知っているか?」は「知らなかった」が約85.7%。

⑩ 「震災孤児や遺児への公的支援は十分か?」は「大いに不足」が約64.3%。

編集後記

復興に直接関係しない話題ではあるが、最近すごく気になることがある。それは日本社会の一般的な風潮のことである。何と表現すればいいのかわからない言葉が見つからないが、まず、オリジナルな意見を表明するのを避けようとする、そうした意見を見つけるとみなで敵こうとする、周囲の空気にあまりにも敏感すぎて、少しでも変わったことを言ったり、行ったりすることを避けようとする傾向のことである。特に最近、こうした傾向が強いように思える。SNSの普及と同時並行なのだろうか。

言論統制は今の日本にはないと思うのだが、さもそうしたことがあるようにふるまっているように思えてならない。

筆者は、こうした傾向を「イワシの群れ症候群」と呼ぶことにしたい。

水族館に行くと、イワシの群れがどんな泳ぎ方をするかをよく観察すると、筆者の言わんとするところをご理解いただけるのではないかと。

その群れは、いつも集団であり、一匹たりとも集団を離れることはない。そして、水のわずかな動きにもおびえて、いっせいに同じ方向に移動するのである。最近の日本社会の動きにそっくり過ぎるのである。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- 連絡先/企画提出先
(郵送) 〒207-0005 東京都東大和市高木3-315-1 ホームタウン宮前2-2 電子タプロイド新聞【東北復興】宛
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp
- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)
- たくさんのご提案をお待ちしています